



エクスタロット ルールブック

エクスタロットの遊び方コンテスト参加作品

018 アルカナ、あるかな？

シュタイン

エクスタロットの遊び方コンテスト参加作品

ゲーム名：アルカナ、あるかな？

バージョン：v1.00

考案者：シュタイン

受付日：2018年3月11日

概要 持っているスートの枚数を予想するゲーム

プレイ人数 3～6

使うカード 全部

参照ルール チキンレース系ゲーム、ダウト

ゲームの目的

カードは112枚全部を使いますが、プレイヤーに配るのはその一部です。テーブルに出ているカードと全員の手札にあるカードで、指定したスートの合計枚数を予想するゲームです。スートは、スペード、ハート、ダイヤ、クラブ、アルカナ（大アルカナのこと）の5種類です。

準備

何かの方法で親を決めます（2回目からは、前回勝った人が親）。親は、テーブルに、アルカナ、スペード、ハート、ダイヤ、クラブをそれぞれ1枚ずつ、表にして置きます。ここにカードを重ねていくので、アルカナの山、スペードの山、などと言うことにします。残りのカードを良く切って、プレイヤーに10枚ずつ配ります。それ以外のカードは使わないので見えないようにしまっておきます。

プレイ方法

時計まわりに、次のことをやります（最初は親）。

手札から1枚を選び、手札と同じスートの山（例えば、選んだ1枚がハートならハートの山）の上に少しずつ表向きを重ねます。ずらすのは、いまそこに何枚出ているのか分かりやすくするためです。なお、誰でもいつでも数を確認のため山を調べることができます。

ところで、アルカナだけはどのスートにもなれます。だから、アルカナはどの山にも置くことができます。アルカナをアルカナ以外の山に置いた場合は、そのアルカナはその山のスートのカードとみなされます。

どこかの山に1枚置いたなら、そのスートが山と全員の手札の合計で少なくとも何枚あるかを予想して宣言します。これをビッドと言います。まだ誰もビッドしていない最初は、3から始めます（例えば、「ハートが3枚」）。2回目以降は、前の人かビッドした数よりも大きい数をビッドします（例えば、前の人か「ハートが3枚」と言ったなら、次の人は「ハートが4枚」あるいは「ダイヤが4枚」のように、スートが変わっても枚数は増やさないとはいけません）。

「ハートが3枚」というビッドは「ハートがちょうど3枚」ではなく「ハートが3枚以上（3枚を含む）あります」の意味になります。

このとき、時計まわりで次の人は、ウソだ（ハートは3枚以上は無い）と思ったなら「ダウト」といいます。正しいと思ったなら、順番が次の人に移り、プレイ方法の2行目に戻って続けます。以下では「ダウト」と言った場合の勝負の決め方を、ハートを例にして説明します。

全員が持っている手札を広げ、ハートの山の枚数と手札のなかのハートの枚数の合計を数えます。このとき、もしハートの山にアルカナがあったら、それも枚数として数えます。手札にアルカナがあったら、それもハートの枚数として数えます。

ハートの合計がビッドの通りだったら、ビッドをした人の勝ちになります。合計がビッドより少なかったら、ダウトを言った人の勝ちになります。

以上は、他のスートでも同じですが、アルカナのビッドでダウトされた場合は、アルカナの山の枚数と手札のなかのアルカナの枚数の合計を数えます。

そうやって、誰かが勝ったら一勝負が終わったことになり、勝った人を親にして準備に戻って次の勝負を行ないます。先に3回勝った人が、ゲームの勝者になります。

ルール募集

エクスタロットを使ったゲームのルールを募集しています。応募のあったルールは、エクスタロットのプレイに適しているか審査され、考案者の氏名、受付の日付とともに pdf で公開されます。考案者は、すでに掲載されたルールを修正・改良することもできます。ルールの申請方法は、エクスタロット・ゲーム情報サイト(<http://xtarot.jp/>)をご覧ください。

エクスタロットは、友達とプレイしながら、ルールを面白く改良していくことを目標にしています。そのため、ハード（カード）とソフト（ルール）を分けています。エクスタロット・ゲーム情報サイトでは、最新のルールやカードの情報を紹介しています。

アルカナ、あるかな？

著者 シュタイン

2018年 3月12日発行 v1.00

発行者 有限会社銀河企画 (GPI.JP)

©2018 シュタイン／有限会社銀河企画